

前編 P255~277
中編 P8~14,30~34

⑪ 加藤神社

『高耶と清正は、熊本城址内の加藤神社の境内にやってきました。追手はふりきった。高耶が息を切らしてベンチに座り込むと、根津も詰め襟のホックをうっとうしげに外した。』
『千秋修平は、その惨憺たる光景に絶句した。加藤神社のそう広くない敷地のなかでいったい何が起きたというのか。まるで暴風雨と地震がいっしょに襲って来でもしたような有り様だ。本殿は屋根が完全に吹き飛ばされて半分傾き、木々はなぎ倒され、おまけに地面はあちらこちらで大きく陥没している。』



加藤清正を奉ってある神社で、お城の裏辺りにあります。原作では、頼竜のせいで滅茶苦茶に。二人が座ったベンチは本殿の手前にあります。二の丸駐車場に入るところには、高耶さんが運ばれた医療センターも。



前編 P130~138

⑫ 熊本城

『学校から城までは遠くない。歩いて十分あればつく距離だ。不開門は城址内にあるらしい。高耶は城の正門にあたる頬当御門から入場券を買って中に入った。』
『不開門は城の鬼門に建つもので、天守閣の裏手にあたる。さすがにこのあたりまでは観光客はこないらしく、閑散としている。』



不開門の近くから街を見下ろせる場所からは、ホテルキャッスルも見降ろせませす。高耶さんと千秋が泊まっていたらうスイートは、窓が4つある上の方。